よしながだより

vol.6

夏に多い病気②…熱中症

熱中症になると体温が異常に上昇したまま下がらなくなり、重症の場合は死に至ることもあります。犬や猫は汗腺が肉球にしかなく、人のように汗をかいて体温を調節することができません。特に犬は暑さに弱い動物ですので注意が必要です。

熱中症予防…ココに気をつけよう!

①日中の散歩は避けましょう

炎天下のアスファルトの温度は50℃近くにまで上がります。犬は体と地面との距離が近く、照り返しをじかに受けているため、人よりもずっと高い気温を感じているのです。散歩は早朝か、温度の下がった夜にしましょう。

夕方はまだまだアスファルトに熱が残っているので要注意!!

②車内への置きざりはやめましょう

日差しが強く当たる車内はあっという間に50℃以上に。たった数分で熱中症になってしまうこともあります。

③室内の温度管理に気をつける

室内で留守番をさせる時は、できればエアコンをつけたままにしておきましょう。保冷剤やペット用のクールマットを使用するのも方法ですが、それだけでは閉めきった部屋では室温が上がってしまい危険です。

④屋外飼育は直射日光が当たらないようにしましょう

犬舎がコンクリートの上にある場合、可能なら土や芝生の上へ移動させた方が気温が低くなります。すだれなどで直射日光が当たらない工夫もしましょう。

屋内・屋外飼育とも、脱水症状を起こさないよう、新鮮な水がいつでも飲めるようにしておきましょう。

熱中症の症状

- 激しくあえぐような息をする
- 大量のよだれが出る
- 足元がふらつく
- ぐったりする
- 意識がなくなる

熱中症だと思ったら??

1. まずは応急処置を!!

全身を水で濡らして冷やします。
できるようなら浴そうやシンクに水をためて、身体ごと浸してあげます。

※極端に冷たすぎる水(氷水)は避けましょう。
水道水の冷たさで十分です。

2. 病院へ連れて行く

病院へ着くまでに少しでも体温を下げるため、
体が濡れた状態のまま連れて来て下さい。

熱中症になりやすい犬

- 短頭種と呼ばれる鼻の短い犬種
  パグ・フレンチブルドッグ・シーズー・ポメラニアン etc
- 寒冷地方の犬種
  ハスキー etc
- 太っているワンちゃん!!

犬は体温調節を呼吸で行います。舌を出して「ハアハア」と激しく呼吸し、唾液を蒸発させ、その気化熱で体温を下げます。しかし、短頭種の犬は気管が圧迫されていて呼吸がしづらいため体温調節ができにくいのです。
また、肥満気味の犬も首まわりに脂肪がつき気管を圧迫しているため、熱中症を起こしやすいです。